

スポーツツーリズム コンテンツ創出事業

**トップカヌーアスリートと子どもたちによる  
フレンドリーマッチ&交流  
「さめうら湖国際カヌーフェスティバル」**

令和7年2月28日

一般社団法人 土佐町スポーツコミッション

# 本日の内容

1. 事業者概要
2. 本事業で解決に取り組んだ課題
3. プロジェクト概要
4. モニターツアー概要
5. 事業プロセス
6. 取組詳細
7. 結果と課題
8. 今後の展望

## 高知県 土佐町



- 面積212km<sup>2</sup>、人口約3500人
- 高知市の北、四国の中央部に位置する山間の町
- 基幹産業は第1次産業（稲作・畜産・林業）
- 2020年度高知県初のSDGs未来都市に選定
- 「水で生きる、SDGs未来都市」

## （一社）土佐町スポーツコミッション



- 町が手掛けてきた取り組みを持続的に発展させる目的で設立
- 町の整備基本計画を具体化した「湖の駅」の運営母体としての役割を担う



## ➤ カヌー競技をベースにした独自の商品開発

- 国内外のトップアスリートとジュニア競技者/予備軍が一同に集い、競技と交流を楽しむスキーム自体の実現
- 海外も含めひろくプロモーションを行い、国内外のカヌーアスリート及び関係者に“さめうら湖に来る理由”をつくる
- 本事業をきっかけに地域にカヌー競技に愛着を持ってもらい「わが町の誇り」として持続的発展させる端緒とする
- そのための財源確保、競技環境/地域インフラ整備、マネタイズ

# プロジェクト概要

|                |   |
|----------------|---|
| <p>プロジェクト名</p> | <p>トップカヌーアスリートと子どもたちによるフレンドリーマッチ&amp;交流「さめうら湖国際カヌーフェスティバル」</p>  |
| <p>概要</p>      | <p>カヌー競技の魅力を体感</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外トップ選手によるフレンドリーマッチ</li> <li>・ボートに乗り至近距離からレース観戦</li> </ul> <p>国内外カヌートップ選手との触れ合い交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湖面でのトップ選手からの実技指導</li> <li>・トップ選手の体験談や質疑のトークセッション</li> <li>・写真やサインなどでのトップ選手との交流</li> </ul> |
| <p>ターゲット</p>   | <p>メインターゲット<br/>：カヌー競技者と、その指導者や保護者</p> <p>サブターゲット<br/>：地域住民</p>   |
| <p>目標KPI</p>   | <p>定量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トップカヌーアスリート 5名</li> <li>・ジュニアカヌーアスリート 20名</li> <li>・湖面からのレース観戦 20名</li> </ul> <p>定性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への関心度の向上</li> <li>・コンテンツ、ツアーへの満足度</li> </ul>  |

# モニターツアー概要

|         |   |   |   |
|---------|---|---|---|
| 名称      | 「さめうら湖国際カヌーフェスティバル」   |   |   |
| 会場      | 高知県土佐町 さめうらカヌーテラス及びさめうら湖  |   |   |
| 開催日     | 2024年11月4日 9:00~15:30   |   |   |
| 概要      | <p>09:00 オープニングセレモニー</p> <p>10:00 フレンドリーマッチ</p> <p>11:30 エンジョイカヌー</p> <p>12:30 ランチ・休憩・交流</p> <p>14:00 トップ選手体験談</p> <p>15:00 クロージングセレモニー</p> | <br><small>Nadas Bence 選手<br/>2024 パリ五輪 銀メダリスト</small> | <br><small>Kim Jiwon 選手<br/>2018 アジア選手権 銀メダリスト</small> |
|         |   | <br><small>橋本将都 選手<br/>2022 アジア選手権 銀メダリスト</small>      | <br><small>棚田大志 選手<br/>2022 アジア選手権 銀メダリスト</small>      |
|         |   |   | <br><small>松代龍治 選手<br/>2023 全日本学生選手権 優勝</small>        |
| モニター参加者 | 滋賀県 オープルカヌークラブ<br>香川県 府中湖カヌークラブ<br>愛媛県 大洲高校<br>徳島県 那珂高校<br>高知県 横浪ブラッシュ<br>高知県 さめうらカヌーアカデミー<br>合計  | 選手2名<br>選手9名<br>選手13名<br>選手4名<br>選手3名<br>選手8名<br>選手45名  | 引率者2名<br>引率者9名<br>引率者2名<br>引率者2名<br>引率者3名<br>引率者2名<br>引率者20名  |

# 実施体制

|                         |              |                    |
|-------------------------|--------------|--------------------|
| 全体企画・統括                 | 土佐町 S C      | 事務局全般              |
| 事業マネジメント                |              | プロジェクト設計/戦略企画      |
| イベント運営                  |              | 総務・広報              |
| フレンドリーマッチ<br>& エンジョイカヌー | 日本カヌー連盟      | レース設計/海外選手招聘/レース解説 |
|                         | さめうらカヌーアカデミー | レース運営ロジ/計測等        |
|                         | 株式会社そらみる     | 湖面上での観戦/安全管理       |
|                         | 保護者/ボランティア   | 全般サポート             |
| 音響                      | 株式会社ユー・エス・ケー | レース実況/BGM          |
| 映像                      | 株式会社アスライト    | ドローン撮影/編集          |
| 交通整理・警備                 | 株式会社ユニオン     | 駐車場警備、道路誘導         |

# 事業プロセス

2024年  
8月～10月

設計  
準備

- 競技カヌー・ゴミ拾いアクティビティの検証
- レースコースの検討
- ボート観戦のシミュレーション
- 音響の打合せ・現地調査
- 映像の打合せ・現地調査
- 地域向け・外部向けのプロモーション
- 地域色を出した独自記念品の制作
- 運営マニュアル類の作成

2024年  
11月4日

モニター  
ツアー

- 前日：招聘トップ選手と地域とのレセプションパーティー
- 当日：9～15時でイベント開催

2024年11月  
～2025年2月

フォロー  
アップ

- 参加者への当日撮影写真とイベント映像の共有
- 運営スタッフによる振り返り
- 来年度以降の運営連携に向けてハンガリーと協議

# ①設計・準備

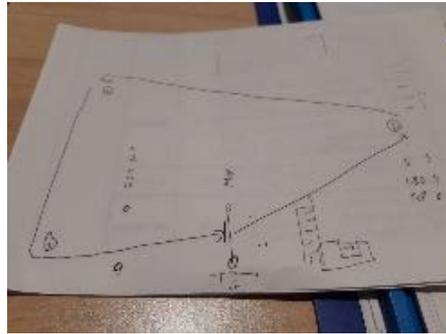
## 競技カヌー・ゴミ拾い アクティビティの検証

スタッフで簡易的に体感して検証。プログラムの再検証が必要な点が発見できた。



## レースコースの検討

湖面上のコースを図面で構想。ブイの色や、動力艇動線などの気づきで調整した。



## ボート観戦の シミュレーション

観戦用のオリジナルで艇を試作。コース上での観戦場所や流されない工夫を協議。



## 音響の打合せ 現地調査

MCによる観戦実況の届く範囲、必要機材や人員の洗い出しを検討し、現地で検証。



## 映像の打合せ 現地調査

映像完成イメージを協議し擦り合わせ。撮影しやすくプログラムや会場図に反映。



## 地域向け・外部向けの プロモーション

プレスリリースの配信、住民向けチラシの地域内掲示、参加選手と連携しSNS展開。



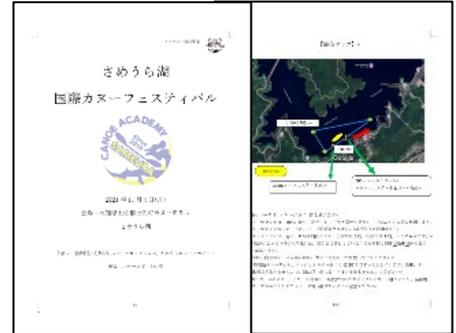
## 地域色を出した 独自記念品の制作

高知県産木材を使用し、土佐町内の事業者により入賞メダル・参加メダルを制作。



## 運営マニュアル類の 作成

当日参加者にプログラムを配布。スタッフが手持ちで使う運営マニュアルを作成。



## ②モニターツアー

レセプションパーティー



フレンドリーマッチの  
全景



ボート上からの  
至近距離での観戦



トップ選手との  
トークセッション



トップ選手との交流



クロージングセレモニー





# 独自アンケート結果（総括）

## ➤ 日本のカヌー競技者/関係者にある意味「サプライズ」をもたらした

- ・今まで経験したことのないプログラム
- ・オリンピックメダリストの参加
- ・四国の中山間地で地域スポーツコミッションが主催

## ➤ 競技振興および地域振興とのリンケージ効果は限定的

- ・トップ招待選手以外のアンケート回答率が低い、地域住民の回答人数が少ない

|               | トップ選手  | ジュニア選手  | ジュニアの指導者/保護者   | 地域住民   |
|---------------|--|---|--|--|
| 回答人数<br>(回答率) | 5人 (100%)  | 11人 (24%)   | 9人 (45%)   | 6~17人  |
| 主なポイント        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての設問が満点！（忖度があると思うが）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サイン会への圧倒的な高評価（6.8、6.9点）</li> <li>・ トップ選手の競技を間近で観たり、話を聞くことにも大きな満足</li> <li>・ 当然だが、大洲高校の観戦者からは残念の声と点数</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推奨度の平均点が最も高い（9.3点）</li> <li>・ 「合宿活用の意向」「観光への関心」「さめうら湖や早明浦ダムへの関心」についても、全体的に良い効果</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推奨度は8.8点と比較的高い</li> <li>・ 「湖やダムのカヌー環境への地域の誇り」や「今後もアカデミー生の活動や成長を知りたい」の設問は5.8点と課題が残る</li> </ul> |

# KPIの評価

## 目標

## 実績

## 評価

### 定量

- ・ 国内外のトップカヌーアスリートを招待（5名）
- ・ ジュニアカヌーアスリートを招待（20名）
- ・ レジャー用カヌー上の至近距離からレース観戦（20名）

|              |            |
|--------------|------------|
| トップカヌーアスリート  | <b>5名</b>  |
| ジュニアカヌーアスリート | <b>45名</b> |
| レース観戦        | <b>15名</b> |

- ・ 運営メンバーである元世界選手権金メダリストの人脈を生かし、スムーズに5名を招待することができた。
- ・ 6チームから目標を大きく上回る集客となった。直前まで確定しにくかったことが課題。
- ・ 申込がなかなか増えずに苦労したが最終的には15名まで集めた。当日キャンセルも課題。

### 定性

- ・ 地域（嶺北・土佐町・さめうら湖）への関心度の向上

|                             |                |
|-----------------------------|----------------|
| <b>ジュニアの引率者</b>             |                |
| 土佐町や嶺北地域で観光したいと感じましたか？      | <b>6.3/7.0</b> |
| さめうら湖や早明浦ダムについての関心は高まりましたか？ | <b>6.3/7.0</b> |
| <b>ジュニア選手</b>               |                |
| さめうら湖のカヌー環境は「すごい！」と感じましたか？  | <b>6.5/7.0</b> |

- ・ モニターツアーのプログラムに観光コンテンツを入れることはできなかったものの、さめうら湖の自然を感じることで興味を高めることができた。
- ・ ジュニア選手にとっても、カヌー環境としての魅力を感じてもらうことができた。

- ・ コンテンツ、ツアーへの満足度

|                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| <b>NPS（推奨度）</b> |                   |
| トップ選手           | <b>+80（平均9.4）</b> |
| ジュニア選手          | <b>+46（平均8.5）</b> |
| ジュニアの引率者        | <b>+78（平均9.3）</b> |

- ・ どのカテゴリーにおいても、周囲に対する非常に高い推奨意向度を持ってもらうことに成功した。
- ・ ジュニア選手だけは、反対者（6点）がいたため、更なる磨き上げに活かす。

カヌー競技をツーリズムコンテンツとして成立させるには、多くのリスク・ハードルがあることが分かった

## ➤ 競技自体の特性に起因するハードル

- ・天候リスク（雨/風/水位/湖面流木他）が高い
- ・競技大会としての環境や、観戦環境（トイレや休憩など）の面では不十分
- ・車（自家用車、バス、トラックなど）でカヌーを積んでくるなど、参加者の負担が大きい

## ➤ 中間地点でのターゲット（顧客）変更

- ・国内参加団体を今後の有料顧客と見込みスタートしたが、現実を踏まえ「招待」に軌道修正
- ・観戦環境とインフラ（宿泊/食事等）の実情などからアウター誘客を実質制限

## ➤ イベントの周知/プロモーションに関して

- ・プロモーション期間が圧倒的に不足（運営要因/競技要因/地域要因）
- ・参加者への丁寧なコミュニケーション（申込受付/事前の情報伝達）が困難

# 次年度の自走化に向けた取組案・体制案

## ①「ここでしかできない、ここに来るしかない」イベント価値に磨き上げる

- 国内外のカヌー関係者が旅費+料金を払ってでも参加したいイベント
- 単発のイベントイベントではなく、継続的に価値提供ができるプログラム/仕組みづくり
- 無理な規模を追わず、地域性を重視した身の丈に合った持続可能性を追求

## ②アカデミーとフェスティバル、大きく2つの方向性で検討中

### カヌーアカデミー

世界のトップ指導者が集い競技者/指導者向け特別プログラムを実施

- 際立つ独自性、グローバルでプレゼンスが確立できる可能性
- 日本/アジアの競技新興国の競技者/指導者にとって垂涎の企画に
- 競技団体との連携/協働が容易、参加費も徴収しやすい

### カヌーフェスティバル

カヌー競技の振興（全体/地域）+ 地域の楽しい“お祭り”の要素を両立

- 日本でのカヌー振興/ファンづくりに国内外のトップ選手が貢献
- 児童中心の親子体験と楽しい選手交流をキラーコンテンツに
- 連携/協働のスキームづくり、財源確保に工夫が必要

## ③地域内外の組織が連携し、関係人口が訪れ続ける、好循環の地域活性化に